



# NEWS

## Women Artists Association

### 第77回女流画家協会展

2024年6月6日～13日 東京都美術館

代表理事 中村智恵美



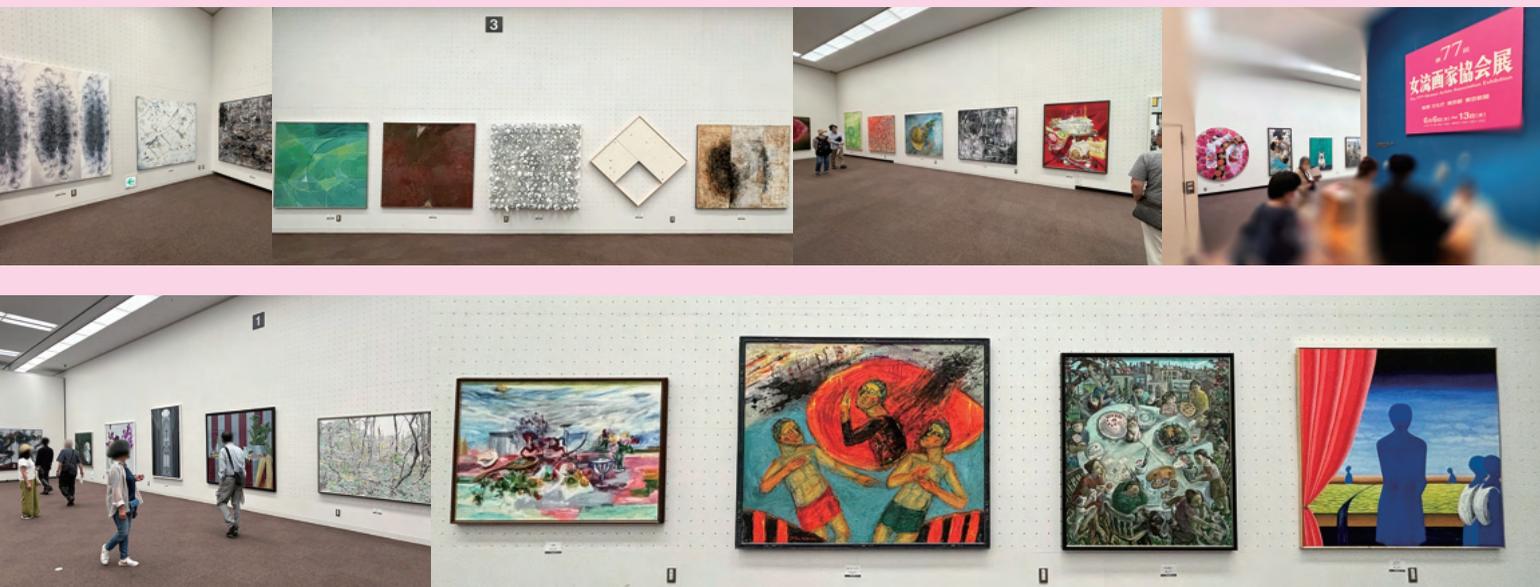
左から  
初出品初受賞の高校生  
吉成 彩さん・菅原菜月さん、  
深井富美子委員・中村智恵美代表理事

2023年11月10日に一般社団法人となり、初めての開催となりました。連日晴天に恵まれ、会場は多数の観覧者で盛況の内に閉場致しました。関係者並びに応援して頂いている皆様に心より感謝申し上げます。今回も数多くの嬉しい話題で盛り上がりました。

初入選者は15歳の高校生から88歳までと幅広い年代層の方々の力作が並びました。また若い頃に出品していて子育てに入り、25年振りに出品され、2点入選された方もいらっしゃいました。

人生と共に絵を描く女性に寄り添っている者として何よりの温かなご褒美を頂きました。

### 展示会場



# 第77回展受賞者の声

## 会員の賞

高橋幸子

SOMPO美術館賞

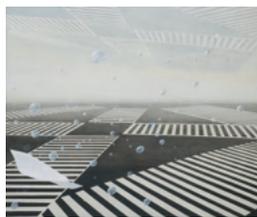


道供養碑の宴  
100F

埼玉出身だが新潟の山奥に住んで25年以上になる。絵の題材は主に周囲の風景。地方では人口減少や高齢化が進んでいるが、滅びゆく土地ならではの景色の美しさに目を奪われる。物語が感じられる絵を描けたらと思う。

山岡貞子

葦崎大村美術館賞



約束2024  
130F

病気療養のため長く制作を中断しておりましたが再開いたしました。思いがけず受賞の御連絡を頂き、感激と感謝の気持ちでいっぱいになりました。これからも作品に丁寧に向き合い、大切に制作を続けて参ります。

木原由美子

水野恭子賞



夢のあとさき  
100S

10年余り コンクリートの壁を描いています。ほとんど出来上がった壁をみながら、何を描くか考えることが多いです。蛇口、水、たまご、カラス…など、壁から10cm(?)の世界で遊んでいます。

広田啓子

原光子賞



架空都市  
100S

受賞は長い間の出品と、長生きのご褒美と思っております。これからも、原光子先生のお作品に少しでも近づけます様に制作を続けて行きたいと思っております。

徳江益美

上野の森美術館賞



斜光  
138×182

毎年、晩夏から初秋にかけて自宅周辺 5～6 kmを自転車で取材します。初めはサトイモの葉や茎の形がおもしろくて描いていましたが、近頃は葉や茎の空間が何かを伝えてくるようで対話が尽きません。

渡部尚子

岡田節子賞



好きなところ  
130F

いつの間にか絵画は私の大きな支えになり、病気の時、コロナ禍でも絵を描く事で乗り切れました。今回の受賞を励みにして、私にとって心に残る場面、美しいと思える感性を磨いて参りたいと思っております。

南雲まき

前田さなみ賞



静寂  
100F

この数年、水を主題に作品を作って参りました。水面を写実的に描くという模索から、近年は少し抽象度を上げる方向へ向かっていきます。受賞を励みに今後も制作に向かって参ります。

香川ヒサ

糸田玲子賞  
委員推挙



語らい  
100F

「創作」という行為は人に与えられた能力、生きて行く上に必要なものだと思う。先日の上野のレセプションでの馬越先生のメッセージに私は共感を覚えた。日々感性をみがいてこれからも制作に向き合いたいと思う。

## 搬入・審査



外部審査員 葦崎大村美術館副館長 堀内洋子 先生

美術評論家 清水康友 先生

## 授賞式・懇親会

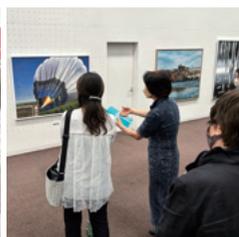


馬越陽子委員

## 講評会



## ワークショップ



## 南場恭子

野中伊久枝賞  
委員推挙



ウォールデンの風  
130F

木炭と食パンを手にデッサンから始めて40年。8年位前に絵のスタイルを大きく変え、心から描きたいと願ってきたことがこの度ついに実った感じがしている。体力と感覚が鈍らない限り、描き続けたいと思っている。

## 殿坂友里恵

会員賞

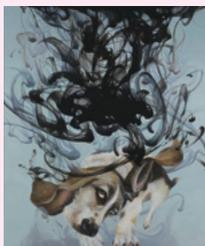


或る日  
100F

静物画においての構成の空間把握と全体質量について検討し、その調和を心がけ制作しました。今後も精進して参ります。

## 阪上芳子

女流優秀賞  
会員推挙

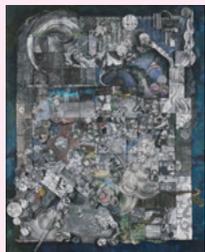


drop-払う  
130F

水中に落とした墨の一滴の動きの変化が面白いと思い、数年前からモチーフとして描いています。もやもやした不穏な黒いものを今の時世の危惧感、不安感として捉えそれを払い避けようとする犬の姿を表しました。

## 田中緑

トークロ・東美賞



ながれ I  
100F

友人に誘われ三鷹での MAC 展に出品、其所で女流の先生方に出会えたことが私の背中を押し、初入選という大きな結果と自信にも繋がり本当に感謝の一言です。次作で賞に恥じないよう努力して参ります。

## 高野美歩

東京新聞賞



越えてゆけ  
130F

屋久杉を描いた。命尽きた屋久杉には上から新しい杉が覆っていき、数千年かけ二代杉として堂々とそびえ立つ。昨日の自分を追い越す、目の前の課題を一つ一つ越える、私も必要なその勢いと生命力を表現した。

## 一般の賞

### 坂井幸子

大村文子記念賞



晩秋2  
80F

コロナ禍で今年初めて協会展を見に行くのを楽しみにしていましたが、まさかの受賞、びっくりしています。私なりに歴史ある協会展にふさわしいテーマである自然なものに向かって描いてゆこうと思います。

### 小川廣子

マツダB賞



うたかた  
130F

いつもマチエールをつけた画面に様々な色でドリッピングすることで無意図的な効果を狙っている。今年作品はそこから触発された形や色を追求した。まだ一步踏み込んだばかりだが、一層の努力をしていきたいと思う。

### 葉山澄子

クサカベA賞



survivre  
100F

ザクザクの岩の崖にへばりついて生き抜こうとする根の逞しさや意志の強さに打たれ、地色を朱赤にした。その生命力が絵から伝わり感動しながら描くことができた。もう少しの間、根にこだわりたいと思う。

## 垂井千恵子

クサカベB賞  
会員推挙

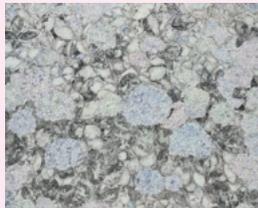


echo 青  
100F

人生百年時代と言われます。大作は終わりにしようと思う日もありました。その度に先輩の「続ける事よ」が浮かびます。描く事が面白い！楽しい！の感覚が有ります。今回の受賞推挙に感謝して、続けていこうと思います。

## 大井みゆき

ターレンスジャパンA賞  
会員推挙



紫陽花  
100F

研究会に参加させていただき大変勉強になっております。作品の媒体は一面に非常に細かい雲母が塗布されている蟬衣宣という中国の古い加工紙です。今後も紫陽花の美しさを大切に日々制作していきたいと思っております。

## 岡野満里子

ゆめ画材賞



ど根性大根  
130F

初出品、最高齢での受賞、ただただ驚いております。自然への信愛の深さを表現したいとの思いから、日頃見過ごしがちな一本の大根に宿る力強さを描いてみました。身近な素材の素晴らしさを描き続けたいと思います。

## 甲斐めぐみ

奨励賞



Antelope  
130F

北米アンテロープキャニオン探検の感動をもとに、水の流れが生む造形美と悠久の時を表現したく描いた。自然の一部である私たちも何か共鳴するものがあり、私もその造形美のように日々ゆっくり進化したいと思っている。

## 室町克代

ラファエル賞  
会員推挙



to the future  
130F

台所の生ごみがたまと再生や循環ということが浮かびます。野菜でも虫でも人間でも何か意味があってそこに存在して、他のものと影響をしながらバトンを渡していくのだと考えています。今は頂いた賞を励みに絵を描き続けようと思っています。

## 永島晴美

ターレンスジャパンB賞



命のかけら I  
100S

今年は制作に集中出来る生活状況になく、只女流画家協会展を休まず搬入したいとの一念で制作した。受賞のお知らせに驚きと喜びに身体ふるえ、涙の出た事が思い出される。今後はもっと密度の深い制作をめざして進みたい。

## 土屋亜輝子

国沢パネル賞  
会員推挙



響きあうその2  
130F

映画「ルーツ」に衝撃を受け、アメリカ教会で黒人ゴスペルを拝見。人種差別の苦難の道を歩む黒人が歌う姿は荘厳で、明日への希望の叫びのようだった。ジャズを流しながら描く私は、つい彼らに響き合ってしまう。

## 春日井由美子

奨励賞



白寿の微笑み  
100F

近年主に人物画を描いており、今回は百歳で亡くなった祖母を描いた。私たちを取り巻く環境は様々な問題があり、殺伐とした世の中だからこそ、人の温もりや優しさ、笑顔が伝わる絵を目指して描いていきたいと思う。



出品者：110名



山梨展担当：杉本弘子

山梨県立美術館県民ギャラリー A,B,C に於いて初めて女流画家協会山梨展を開催致しました。会期初日には大村 智様（韮崎大村美術館館長）、堀内洋子様（韮崎大村美術館副館長）、島田紀夫様ご夫妻（元山梨県立美術館館長）を迎え開会式を開催致しました。

山梨日日新聞と読売新聞に記事が掲載され、7月17日にはNHK甲府の県内ニュースで朝昼晩の3回にわたり会場風景が放送され、多くの方々にご来場いただきました。110点の大作を一度に沢山見たのは初めてと3回ご来場くださった方、毎年開催して欲しいとの声も沢山頂き、大変励みになりました。



大村智先生



韮崎大村美術館と大村先生ご生家の見学

遠藤彰子

私が初めて新潟市美術館を訪れたのは 1980 年代中頃のこと。「たそがれの街」という作品が収蔵されることになり、その作品のお披露目となる展覧会に伺った時でした。

まだ三十代の前半で、何者でもない私の作品が、美術館に収蔵されることへの驚きと、実際に展示を見て、いつかこの美術館で個展が出来たら良いなと思ったことを、今も鮮明に覚えております。それから 40 年以上もの年月が経ち、その会場で個展を開催することが出来たことは、大きな喜びと共に感慨深いものがありました。



たそがれの街 194×259cm

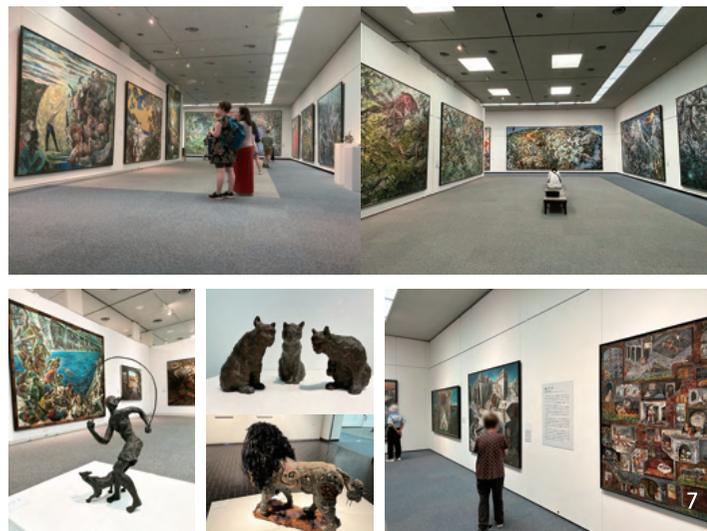
収蔵された「たそがれの街」(1982年)は、日本の高度成長期の頃に描いた作品です。その時は、西新宿に代表されるようなビル群がどんどん建設され、人と人との関わりが薄くなっていった時期でした。経済の発展によって物質的に豊かになるかわりに、人間の心が失われていくような空気感と、私自身の将来への憂いとが重なったことで、街に住まう人々の不安と明日への希望を表現しようと思い描きました。どのようにしたら、今という時代の空気感を画面に表せるのかということ、この頃はいつも考えていたように思います。

個展では、若い頃から現代までの500号以上の大作35点を中心に、新聞のカットや立体物などを含め、約80点ほどを展示いたしました。もちろんすべての作品ではないのですが、自分自身でも「よく描いたな…」と、日々の積み重ねの大切さを身をもって感じました。

2021年に鹿児島から始まった回顧展は、神奈川や長野、山形、北海道を巡回し、7館目となる新潟市美術館で最後となりました。ご来場いただいた皆様からの叱咤激励を含め、ああすれば良かった、こうしたらもっと良くなるというような筋道が見えたので、これからの制作に活かしていこうと考えております。女流画家協会の皆様とも、それぞれの会場でお会いすることが出来て、とても嬉しく思いました。心より感謝申し上げます。



海外から来たお客様との記念撮影



# 2024年 個展・トークイベント紹介

## 中村智恵美 講演



## 第93回第一美術展一般公開講座 特別講演 講演テーマ「自作品ー過去と現在」

6月2日 国立新美術館研修室AB

作品制作を始め、発表する様になり約40年の間に作風は5回程変わりました。

その時々において生活状況や自己の考えで変えていったものです。大学での油彩画、アクリル画、エアブラシを使用した作品。箱を組み合わせた作品。現在は樹脂絵具を使用した静物を主とした作品へと。その中で描く事が好きなんだと確信しました。70歳を目前にこれからだと感じるこの頃です。



## 須藤美保 自選展 ～きらめく時の中で～

1月7日～16日 ヒルトピア アートスクエア



写真:岐阜新聞提供

表現者としての自己を意識するようになって長い。2010年の作品をきっかけに現在の表現に至っている。今回は2010～23年までの大作を含む18点を選び並べた。公募展後に倉庫にしまわれた作品たちだが、自分でも再び見たいと思えるものばかり。今後も絵を描き続け、10年後にまた大作を並べてみたいと考えている。

## 江口薫 展

1月15日～20日 新井画廊



“As time goes by” 時の過ぎゆくままに…。夜空を仰ぐと永久の星の煌めき。沈黙の時間が漂う。宙と時間の神秘、畏敬を造形すべく構成。鋭く暖かく試行を楽しんでおります。ご高覧頂きました諸先生方やお仲間と画廊での有意義なお話の機会があり、女流画家協会の熱い絆と歴史に参加しています事、光栄です。

## 橋本とも子 描画展 -フローラ逍遙-

3月6日～10日 三重画廊（三重県津市）



岩絵の具、日本画溶剤を用いた1995年以降の板画作品19点と、和紙、水彩用紙に水溶性のリキッドタイプのチャコールを使って四季の植栽を題材に描画した近作25点を展示致しました。涅槃経の中にある＜草木国土悉皆成仏＞が、油性画面であれ水溶性画面であれ、通して一貫させたい私の表現テーマです。

# 女子美スピリッツ2024 継岡リツ展

10月17日～11月27日

女子美ガレリアニケ



昨年の秋、女子美杉並のガレリア・ニケの企画で個展をさせていただきました。会期中10月30日は創立記念日で女子美祭もありました。附属高校に入学した時、創立記念日が自分の誕生日と同じでびっくりでしたが、まさか、なんと、今年85歳の誕生日を母校での個展の最中に迎えるとは思っていませんでした。

高3ではじめて油絵を描き、その後の描いてきた時間の長さ！今回我ながら驚きました。学生・助手時代の作品は展示出来ず残念でしたが、歴史資料室保管の古い女子美新聞で大学3年の時の作品にもご対面しました。改めて、今までの自分の作品と向きあい、その時その時の作品に対する思いや、大切に過ごしてきた日々のことを思い出し、たくさんの素敵な出会いに恵まれて描いてこられたことに感謝です。

皆さま、有がとうございました。



## ギャラリートーク 入江 観 × 継岡 リツ

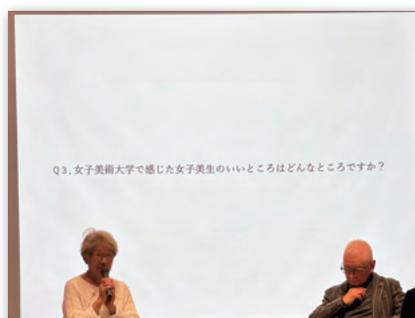
11月16日 女子美杉並キャンパス1号館  
110周年記念ホール



入江観氏と継岡リツ委員のトークイベントが開催されました。お二人の画歴や女子美でのエピソードなどが語られたご様子は、女流画家協会ブログでご覧いただけます。



女流画家協会ブログ  
「ギャラリートーク 入江観×継岡リツ」



## 43渡辺記世 展



3月20日～24日 徳島県立近代美術館ギャラリー

新作150号～SM44点。

雨ざわざわ、リズムをとってうたってみる。乾いた地面に甦るよう翼つけて旋律する。庭に緑を張って土は黒々と光り、地上は動きだし酸いも甘いもたっぷりの命を重ね、静寂になった風景は鼓動を弾ませる。自然の息吹きは四季の音、天から舞い降りる神様、明日は太陽に向かいすみ渡る空。木精なり。

## 長井キコ 展 -Feeling Love-



5月5日～11日 新井画廊

女流画家協会の先生方にはいつも御指導、御鞭撻頂き、感謝しております。銀座の新井画廊で、制作のテーマ変更のお知らせという事で、個展を開催させて頂きました。日本画の少々部外者的な私の作品迄を日頃、深く御高覧頂いている事を知り得た、感動的な個展でした。有り難うございました。

## 藍明清 展 -妙 MYORYU 流-



6月16日～22日 ギャラリー青羅

月下美人に魅せられ50年以上、鉛筆で描くのが一番似合うと100号に一輪を描いたのが27年前、夕方萼が少しずつ動いてひらりと羽衣を翻す様に開花していく姿、高貴な香りまでも描き留めたくて夢中になります。久し振りの個展はハワイに群生するという月下美人を想い展示、又もっと素敵に描けたらと思います。花々に感謝です。

## 広瀬晴美 展



7月7日～13日 うしお画廊

ここ数年『私的風景』というテーマで『花』をモチーフに描いてきた。散歩中に出会った花から感じる独特な感覚を、さらに花に寄り添って表現したいと考えている。今回は紫の花の油彩画を中心に、パステルで描いたドローイングを含む12点を展示した。女流サイトを見て訪れた方も多く、SNSでの情報発信の重要性を実感した。

## 前田礼子 イコン画展



7月19日～28日 教文館3Fギャラリーステラ

「危険な暑さ」と言われた7月に、私のイコン画展においていただき、ありがとうございました。木を削って布を貼り、ポローニャ石膏とウサギの膠の濃度を変えて塗り重ねてから、箔下の処理をして箔を貼ってようやくテンペラ画を描き始めるので、途方もない時間がかかるのですが、またコツコツと制作に励みたいと思います。

## 新戸部ひろみ 油彩画展 -美しき宝、八戸 PartIV-



8月3日～31日 カフェ&ギャラリー うみ音

毎夏『美しき宝 八戸』をテーマの個展は今年で4回目。小品～F130号。新作制作は大変ながらも習慣となり、良いペースで進められている。F30号の『幸せな時間』は、能登半島地震や海外の紛争など悲しい出来事の中、普段がいかに幸せかを表現した。地元海岸沿いの景色は多様な表情を見せ、さらに追求したいと思う。

## 南雲まき 個展



8月27日～9月1日 ギャラリー青らんぎ

水が命を支える存在と考え、水をモチーフに平和を願って制作している。今回は油絵に加えリノカット技法で和紙に刷った版画も展示。海外の大学でワークショップを行い、学生の作品を預かり帰国。能登地震復興支援のため、学生と自身の作品をギャラリーで販売し、売り上げを寄付することができた。

写真は「小さな版画展」11月5日-11日  
南魚沼市立ミオカホワイト美術館ギャラリー

## 楠本 恵子 展



9月2日～14日 新宿ゴールデン街Bar十月

17:00より23:00までほとんど毎日在廊致しました。

1日不在した日に、映画「シサム」のプロデューサー嘉山健一氏がおみえになり、嬉しかったです。今回は、「YELLOW・SPACE～秘密の花園・イエローより愛をこめて～」シリーズの作品を出品致しました。女性のお客様も多く安心できる会場です。

## 星 啓子 展



9月30日～10月5日 うしお画廊

5回目の個展を終え、皆様から貴重なアドバイスをいただき、今後の糧にしていこうと心より感謝している。日頃は、裸婦の曲線や柔らかさの魅力に取りつかれ、墨でのクロッキーに余念がない。大作では、キャンバスに墨で裸婦を重ね着彩し、新しい形が生まれるまで試行錯誤し挑むことが楽しくて、今後もずっと描き続けていきたい。

## 第4回 川口智美 展



11月7日～18日 亀山画廊（静岡市）

今年で4回目の静岡の亀山画廊での個展でした。静岡新聞に記事が掲載され、地元の中学や高校時代の友人が来てくれて数十年ぶりに会うことが出来ました。絵を描き続けることは大変な時もありますが、長く続けていると新しい出会いや時々々褒美のような事が起きます。それで描き続けられるのかもしれないと感謝しました。

研究会のお知らせ

毎月1回 金曜日(8月・12月は休会、都合により他の曜日になることもあります)

3ヶ月前に会場使用日が決まりますので、ご案内ハガキや女流HPでご確認ください。



研究部お知らせページ

内容 講師によるアーティストトーク、作品講評

裸婦・コスチュームなど、クロッキー・デッサン、ムービング

記名料 3,000円(入会時より10回有効)

会費 3,000円

入会随時

持ち物 作品及びエスキース

クロッキーなどに必要な材料(スケッチブック、筆記用具など)

申し込み(連絡先)

研究部担当：黒沢裕子 03-3308-0816  
090-7821-4591

前田礼子 090-2453-2624

Web HP: [joryugakakyokai.com](http://joryugakakyokai.com)

出品者の皆さま、個展DMは事務所へお送りください  
HPやブログに掲載いたします

個展のお知らせは、WEBをご活用ください

Web 担当：中嶋しい

名簿が廃止されて以来、なかなか個展の案内を出したり受け取ったりできなくなったのではないかと思います。

そんな中、「サイトをみて来ました!」と 個展に足を運ぶ方々が増えています。

個展 DM を事務所にお送りいただきますと、ブログや X(旧 Twitter)で発信いたします。

委員・会員だけでなく77回展の出品者の皆さま、ぜひ交流の場としてご活用ください。



委員会個展情報ページ

協会公式サイト



協会公式ブログ



X(旧Twitter)



YouTube女流画家協会チャンネル

- 講演
- メタバース展
- 74回展・つくば展



Women Artists Association Exhibition  
since1947

JG 78th 女流画家協会展

2025

会期：2025年6月6日(金)～13(金)

搬入日 5・25(日)

女流画家協会 会報 Vol.16 2025. 2

発行日：2025年2月1日

発行：一般社団法人 女流画家協会

一般社団法人 女流画家協会 事務所

〒142-0043 品川区二葉4-14-10 TEL 03-3784-9577

[jimusho@joryugakakyokai.com](mailto:jimusho@joryugakakyokai.com)